

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム東山
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	静岡県御殿場市東田中1447-1
記入者名 (管理者)	成澤 昌美
記入日	平成 20年 10月 30日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	認知症を理解して頂き、安心して交流が出来る関係作りをしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を開催し、地域の民生委員や住民に参加してもらい、地域に貢献できる事を相談している。	○	地域の高齢者の方々が気軽に相談に来て頂けるような体制を整えたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月のケアカンファレンスで話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。	○	今後も課題、改善点に対して取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、現在の状況を報告するなかで意見を聞き、サービス向上に役立てている。	○	運営推進会議を2ヶ月に1回開催できるように取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の会議、研修に積極的に参加している。また、入居申し込み等についても相談に応じている。	○	よりホームの現状を理解、把握して頂けるように報告や相談を行い、サービス向上につなげていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加し学んでいる。	○	個々が学んだ知識は他の者と共有できるよう取り組んでいく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し学び、虐待の防止を徹底している。また、スタッフの精神状況についても気を配っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>入居時に説明を行っている。また、入居者や家族の不安や疑問に対し対応するスタッフを配置している。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>・「御意見箱」を設置している。 ・日常の会話の中で意見、不満等がないか気をつけている。</p>	○	常に入居者の声に耳を傾け、意見、苦情があった場合は速やかに対応し、運営に反映していきたい。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>・かわら版の発行と毎月居室担当者より入居者の様子を報告している。 ・必要に応じ個々に連絡を取り状況報告並びに相談を実施している。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>・「御意見箱」を設置している。 ・苦情が寄せられた場合は迅速に対応するようにしている。</p>	○	今のところ苦情はないが、家族の面会時にはコミュニケーションをとり、意見等を聞くようにしている。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>気軽に意見や提案が言える環境である。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>日中は3人～4人の職員を確保し、柔軟な対応が出来るようになっている。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>必要以上の人事異動は行われていない。また、異動に関しては十分に考慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・各研修へ参加する機会を設けている。 ・資格所得に向け職員間で情報交換し、スキルアップを図っている。 ・日々の業務の中でスタッフ個々の指導、相談等対応している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われている市主催の会議で意見交換されている。	○ 今後も積極的に同業者との交流する機会を持ち、サービスの質を向上させていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・各自がストレス解消を個人的に行っている。 ・職員同士の関係が良く、悩み事を言える間柄である。	○ 今後も継続し職員間の雰囲気良くし(良いところ探し)、良い職場の環境づくりをしていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	取り組んでいる。(正社員への昇進等)	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	日常の会話の中で受容と共感の姿勢で入居者の気持ちを受け止める努力をしている。また、入居者が困難な場合は家族から要望を確認し、希望を反映出来るよう努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時や入居後の面会等の機会に家族とコミュニケーションをよく取り会話を大切にしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容により、他のサービスを含めた対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学をして雰囲気を感取って頂き、仲良くなれそうな入居者との間を取り持ち、スムーズに馴染んで頂けるようにしている。	○	利用する前に本人の情報収集をしっかりと行い、スムーズに馴染んでいける様に環境を作っていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の出来ること、出来るようなことを見極め、関わりを積極的に持ち、支えあう関係を築いている。	○	今後も関わりを積極的に持つことにより良い関係を築いていきたい。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年に2度の家族親睦会や面会時には積極的に声を掛け情報提供を行い、互いに相談しながら一緒に本人を支えていく様努力している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	在宅時に悩みやストレスを感じておられた部分を理解し、ご本人に愛情を持って接して頂けるよう支援している。	○	本人と家族のお互いの思いが結びつくような働きかけをしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人、場所を聞き出し、可能な限り「会いたい人」「行きたい場所」の実現に取り組んでいる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の個性を把握し、周りの方との関係を理解した上でお互いに良い関係が築けるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設へ移られた方やご家族から、現在も電話や手紙で連絡がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入居時に、本人や家族から意見を確認し日々のケアに取り組むようにしている。 ・入居者との関わりを積極的に持つことにより、入居者本位の生活に近づける様、努力している。	○	本人の気持ちや家族の希望を聞きながら、押し付けでない、本人本位の生活が出来るように支援していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族にバックグラウンドを記入して頂き、入居後はセンター方式を使用してこれまでの暮らしを把握出来るよう努力している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・日誌、記録により把握に努めている。 ・センター方式を使用し、総合的に把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスで現状を把握し、担当医、家族とも相談しながら介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度見直しをして、必要に応じて現状に即した介護計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月の個別日誌や連絡ノートにより情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームで生活が困難になった場合、系列のグループホームへの転居等、柔軟に支援出来るようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的にボランティアの方が来て下さっている。	○	小・中・高校生のボランティアの受け入れもしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	担当者会議で話し合いがされている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センター方の出席をお願いしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	休日、夜間いつでも相談、受診できる協力病院を確保している。	○	入居者、家族に安心して頂ける様に医師との関係を密にしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の記録、情報については、他者の目に付かない様に配慮している。入居者一人一人の違いを尊重し、その人に合わせた言葉掛けや対応をしている。特に排泄に関する言葉掛けには配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常の関わりの中で入居者本位の生活が出来るように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人を理解し、(性格、生活歴等)個別のケアが提供できるよう努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一緒に洋服を選んだり、本人の希望する美容院へ行ったりしている。また、毛染めを希望する方には毛染めを支援している。	○ ホームでヘアカットもしているが、本人が希望する場合は、気分転換も兼ねて行きつけの美容院へ行けるよう支援していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者により個人差があるが、利用ができる事を見極め、一緒に献立を考えたり準備や片づけを行っている。食事も同じテーブルにつき会話を楽しんでいる。	○ 認知度の重度化が進み難しい方が増えてきているが、準備や片づけが出来なくても食事をする事の楽しみを忘れない様支援していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・個人で好みのおやつを持っている方もいる。 ・手作りおやつを心掛けている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、本人に最も合った排泄状況、介助方法を把握し、誘導して自立出来る様に支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は(月・火・木・金)と決めているが、職員と一対一でゆっくりと入浴出来るようにしている。また、希望があればいつでも入浴出来る。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	基本的には就寝時間は決めておらず、本人の好きな時間に休んで頂いている。夜間不眠の方には、日中の活動を多く取り入れ、夜間はぐっすり眠れるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人に合った役割を見つけ、習慣となるように支援している。趣味のある方には励まし、楽しみを続けられるように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に協力して頂き、個人の財布を用意して買い物や外出をし、ご自分でお金を払うことを支援している。財布はホームで預かり、おこずかい帳をつけ、家族に確認して頂いている。(7/9人所持)		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日は散歩、ドライブに出掛けている。買い物も同行している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常の会話の中で行きたい所を把握し、支援している。また、家族と相談し、家族と外食や自宅へ帰ることが出来るよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が書ける方には声を掛け奨励している。また、家族からも手紙が頂けるよう支援している。電話は依頼があればいつでも掛けられるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・家族や知人が面会に来られた時は、リビング、居室等、思い思いの場所でゆっくりと過ごして頂いている。また、昼食を一緒にとることもある。 ・訪問に制限はない。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、スタッフが理解しており、現在拘束は行っていない。	○	今後も身体拘束だけでなく言葉掛け等も注意していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には鍵をかけないという考えはあるが、入居者の状況により玄関の鍵を掛けざるを得ない状況にある。また、玄関にセンサーを取り付け、音が鳴るようにしてある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・居間には必ず職員を1名配置している。 ・記録の際には入居者に背を向けない等、プライバシーに配慮しつつ日々の状態を把握している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状態に応じ対応している。(薬は事務室に保管、洗剤・刃物は扉のある場所に保管している。)		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書、事故報告書を作成し、再発防止について話し合いをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	普通救命講習会 I を受講して応急手当や初期対応の仕方を学んでいる。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災・地震の災害時の日中と夜間対応の防災訓練を定期的に行っている。隣の住人へも協力をお願いしている。	○	現在、地域の方との具体的な連携体制は取れていない為、今後の課題である。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時、または面会時に家族に対して、現状で起こりうるリスクの説明をし、本人、家族の要望に沿った形で出来る範囲の対応をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	夜勤者と日勤者の申し送りは毎日なされている。個別のバイタル表、排泄表、連絡ノートがあり、出勤時に確認している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個人別の服薬表を作成しており、一目で利用者の服薬状況を把握できる。 ・薬カードを作成し、食後入居者本人より「薬下さい」の声が出るように支援している。また、服薬時には職員が確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事メニューに気を配り、牛乳、ヨーグルトの提供、水分摂取の支援をしている。また、レク、運動、散歩も取り入れ便秘予防に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・歯磨きの自立している方は、食後声かけをし、洗面所まで誘導し支援している。 ・義歯は夕食後ホームで預かり、義歯洗浄剤を使用し保管している。	○	・自分の歯がある方に対しては、いつまでも自分の歯で食べられる様支援していきたい。 ・口腔内の不衛生による誤嚥性肺炎の予防に努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立で、栄養バランスもとれており、一人一人の疾病、体重の増減を把握している。また、水分表も作成している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを作成し対策を取っている。（手洗い・うがいの励行、着替え、入浴時の皮膚チェック、掃除の時に手すり、床をハイターの薄め液で拭く等）	○	早期予防に努め、感染に対する対策を取っていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・台所は常に清潔に保ち、調理器具、調理台の消毒を行っている。 ・食材は新鮮なうちに調理する。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	一般家庭と同じ様に庭に家庭菜園を作り、玄関周りには草花の鉢植えを置いている。利用者が書いた表札を掛けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良い居間、落ち着いて暮らせる様に音の大きさ、採光に気を配り、食事作りの音、においが感じられ、いつも季節の花を生け居心地の良い空間作りを心掛けている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファを置き、気のあった方同士が自由にくつろげる居場所があり、ゆっくりと過ごしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や身の回り品の持込で生活の持続性を大切にしている。仏壇を持ち込んでいる方もいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気を頻繁にし、空気のだよみは感じられない。温度調節もこまめに行い、居心地の良い環境に配慮しているが、入居者により快適温度が異なるため難しい部分もある。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・歩行訓練が出来る様に、やや太めでしっかりした手すりを設置している。 ・階段も両手で手すりが持てる幅にしている。 ・台所の流し台は入居者に合わせて低くしてある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・居室入口に手作りの表札を掛けてある。 ・トイレ表示もし、自立支援の配慮をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑で野菜の収穫を楽しんだり、天気の良い日は芝生の庭でお茶を飲み気分を変えたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/>	①毎日ある
	<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/>	③たまにある
	<input type="radio"/>	④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input checked="" type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
	<input checked="" type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

理念「自立と尊厳」に基づき、入居者の「見たい」「食べたい」「行きたい」等の「○○したい」という気持ちを大切に、「たい」を拾い上げ、一つでも多くの実現に取り組んでいます。現状の入居者が認知度、医療面での重度化が進んできています。スタッフの対応、環境面での強化を考えるとともに、入居者が自分の意思のままに自分らしく生活し、「喜び」「満足」「笑顔」のある質の高い生活が支援出来ますよう努力しています。「自分の親や大切な人を当ホームに入居させられますか」との問いに職員全員が「ハイ」と答えられます。しかし、これで良しとはせずに常に謙虚に、入居者に尊厳の気持ちを持ち、理念の実現に取り組んでいます。